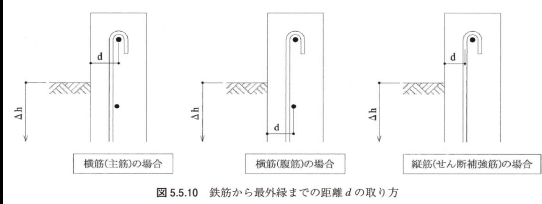
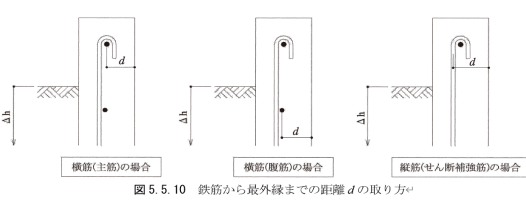


「小規模建築物基礎設計指針」(第2版, 2025年12月刊行) 正誤表

整理番号1-1から1-14まで: 2026年6月1日 第2刷にて修正予定

| 整理番号 | 頁 | 訂正箇所 | 誤 | 正 |
|------|-----|-----------------------------|---|--|
| 1-1 | 14 | 表1.4.3 下部の[注]3) | 「影響が中・大」となる場合で | 「影響が大」となる場合で |
| 1-2 | 21 | 表2.1.2 表中一番左の列 上から2行目 | 1.本調査 | 1. 基本的な地盤性状の把握 |
| 1-3 | 87 | 式3.4.1, 式3.4.2 下部の記号説明 | []内のa., b., c., d. の記号 | それぞれ, i, ii, iii, ivに読み替える |
| 1-4 | 98 | 上から4行目 | 評価精度を上げたい場合には, 表2.3.2 に評価精度の高い順に応じて | 評価精度を上げたい場合には, 表2.1.2 に評価精度の高い順に応じて |
| 1-5 | 113 | 上から4行目 | なお, 建築基準法の建築確認手続きで審査省略制度の対象となる建築物の場合は, 各階の床面積から算定される必要壁量によりレベル1風荷重を評価することもできる。 | なお, 建築基準法の建築確認手続きで構造計算の対象とならない建築物の場合は, 各階の床面積や見付面積から算定される必要壁量によりレベル1地震荷重・風荷重を評価することもできる。 |
| 1-6 | 148 | 図5.5.10 |  <p>図 5.5.10 鉄筋から最外縁までの距離 d の取り方</p> |  <p>図 5.5.10 鉄筋から最外縁までの距離 d の取り方</p> |
| 1-7 | 150 | 式番号 | 式番号の抜け $q_a = 30 \overline{W}_{sw} + 0.64 \overline{N}_{sw}$ | 式番号の追加 $q_a = 30 \overline{W}_{sw} + 0.64 \overline{N}_{sw} \quad (5.6.2) \leftarrow$ |
| 1-8 | 166 | 上から6行目 | 常時の鉛直荷重/ 改良体の材料強度 | 常時の鉛直荷重/ 改良体の長期許容圧縮力 |
| 1-9 | 166 | 上から8行目 | 従前の指針で定義されていた小規模建築物を超える適用範囲において, | 削除 |
| 1-10 | 168 | 上から4行目 | (2.3.8)式 | (2.3.9)式 |
| 1-11 | 179 | 図6.2.5 | 曲げモーメント: $M = 1/12 w l^2$ (kN・m) | 曲げモーメント: 中央部 $M_T = 1/24 w l^2$ (kN・m) 端部 $M_E = 1/12 w l^2$ (kN・m) |
| 1-12 | 200 | 図7.1.10 | 基礎の設計接地圧 $\sigma_e = (H \cdot \gamma + w) \times 1.5$ | 練積み擁壁の簡易設計接地圧 $(H \cdot \gamma + w) \times 1.5$ |
| 1-13 | 201 | 図7.1.11 | H : 擁壁の高さ(m) | H : 擁壁の全高さ(m) |
| 1-14 | 339 | 下から5行目 | 設計基準強度は $t_e / r = 3.5 / ((139.8/2)) = 0.05$ であるため, | 設計基準強度は $t_e / r = 3.5 / ((139.8/2) - 1) = 0.05$ であるため, |